

田附弘明

D：福島県会津東山温泉コース

「現地を訪問して想うこと」それはまさに「コミュニケーションを通じての人と人とのところのつながりの大切さ」であった。言うまでもなく 3・11 は大震災・大津波そして原発事故であったわけであるが、今回訪問した会津若松の地はなによりも「風評被害」であった。「福島産」というだけで農産物がさっぱり売れなくなり、鶴ヶ城や東山温泉を訪れる観光客が激減したという。それであれば原発事故で日本全体が汚染されたかのように受け止めた海外の人と変わらないのではないか。個別訪問先の「フルーツランド北会津」「会津活・活自然村」「くつろぎ宿新滝」の皆さんはそれぞれに復興に向け前向きに取り組んでおられた。そこでは異口同音に、物的・金銭的支援はもちろんだが「多くの人が支援してくれていると感じられることが何よりの支えになる」とのことであった。同じ立命館の卒業生として実際に現地を訪問し、その地の同窓生の方々と食事をともにして語り合うことで、お互いの心が通い合い、ささやかながら支援の一助になったとすれば嬉しいことである。今回の企画を立て実行に努力された関係各位に謝意を表するしだいである。